



平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択
文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



Newsletter

特集 中国四国地区大学との連携

もくじ

男女共同参画室の取組み	1
特集：中国・四国地区大学との協働	2
お知らせ	3
研究支援員事業利用者エッセイ	4
女性サポート相談室だより	4
データでみる岡山大学 男女共同参画の現状⑤	4
編集後記	4



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

事業総括報告会

日時 平成23年12月20日(火) 14:30～16:30

場所 岡山大学創立五十周年記念館

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」終了を間近に控え、学内に事業の実施状況を報告するため、平成23年12月20日に事業総括報告会を開催しました。

当日は、森田潔学長を始めとして、平成23年度に設置したダイバーシティ推進委員会のメンバーである研究科長や学部長も多数参加され、盛況のうちに報告会を実施しました。

事業を担当してきた沖陽子男女共同参画室長からの全体報告の後、詳細な報告が部門長等から行われました。また、研究支援員事業利用者やWTT教員も各々の研究活動について発表しました。

パネル・ディスカッションでは、研究支援員事業やメンター事業の実施状況や、WTT教員の待遇等について、数多くの質問があり、参加者の女性研究者支援事業への関心の高さがうかがえました。



大学教員にメンターは必要ですか？

第2回メンタリングに関するセミナー

「大学教員にとってのメンタリングの実践」

日時 平成23年12月15日(木) 10:00～12:00

場所 岡山大学本部棟6階第1会議室

平成23年12月15日、名古屋大学より中井俊樹氏(高等教育研究センター准教授・男女共同参画室員)を講師に迎え、第2回メンタリングに関するセミナー「大学教員にとってのメンタリング実践」を開催しました。中井氏からは、名古屋大学で実施されている新任教員を対象としたメンタープログラムの概要や実施の背景に加え、プログラムの運用や参加教員を対象としたアンケート結果についても講演していただきました。

講演後のパネル・ディスカッションでは、本学教員4名が、日頃のメンタリング実践状況について報告した後、新任教員の成長にとってメンターが果たす役割や、大学におけるメンタリング・プログラムの必要性について議論しました。当日は、許理事を始め、フロアからの意見や質問もあり、活発な議論が行われました。



特集 中国四国地区大学との協働

第3回中国四国男女共同参画シンポジウム

女性研究者が活躍する大学～支援ネットワークの強化を目指して～

11月11日に「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」を岡山大学の主催で開催しました。本シンポジウムは、中国四国地区における女性研究者支援を推進し、地方の活性化につなげていく意識の共有を目指して平成21年度より毎年開催されているものです。

第3回となる今回は中国四国地区の大学、岡山県、岡山市の担当者など約100人にご参加いただきました。特別講演には板倉周一郎 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長をお迎えし、「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」と題して講演いただきました。引き続き、基調講演として鈴山雅子氏（三重大学男女共同参画コーディネーター）に「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題：三重県における事例報告」をテーマにご講演いただきました。続いて各大学と岡山県からの取組事例の紹介、ポスター・セッションが行われ、その後のパネルディスカッションでは、沖陽子 岡山大学男女共同参画室長がコーディネーターとなり、地域、大学間連携の可能性などについて意見交換を行いました。

最後に、中国四国地区の国立10大学の学長を代表し、森田潔岡山大学学長から、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」が行われました。



「男女共同参画における中国・四国地区 大学間連携に関する検討会議」を開催

シンポジウム開催日と同日、中国・四国地区国立大学の男女共同参画関係者で検討会議を開催し、大学間における連携のあり方などについて意見交換しました。今後は、対象を国立大学以外にも広げ、年1回のペースで継続して開催することとなりました。

中国・四国地区国立大学の 男女共同参画推進のための共同宣言

中国・四国地区の国立10大学は、男女共同参画社会の実現を目指して、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」を行いました。本宣言文は9月27日開催の平成23年度秋季中国・四国地区国立大学長会議で協議・承認され、第3回中国四国男女共同参画シンポジウムにおいて森田潔岡山大学学長が代表して宣言しました。



我が国の大学においては、近年、男女共同参画のためのさまざまな取組みが推進されています。本学においても、平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費 女性研究者支援モデル育成事業に「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択されて以来、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室を中心に取組を推進してきました。

本宣言文では、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知の10大学が、男女共同参画に関する特徴ある取組を継続し、一層発展させていくとともに、以下の5項目の実行を謳っています。

- 大学構成員の女性比率の向上に努め、かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること
- 大学構成員がもてる資質・能力を最大限発揮できる教育・研究及び就労環境を整備・充実すること
- 男女共同参画の視点に立った人材育成を推進すること
- 男女共同参画社会実現への取組において、シンポジウム等を継続開催し、地域との協力・協働を進めること
- 男女共同参画社会実現に向けて、地区内での大学間の相互交流と連携を一層深化させること

共同宣言の全文は以下の URL をご覧ください。

http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/up_load_files/pdf/111111danjo_sengen.pdf

子育てや介護で頑張っているあなたへ

本学の研究支援員事業では、出産・育児・介護等の理由により仕事と家庭の両立が難しい女性教員に対して、実験補助やデータ整理等を行う研究支援員を配置しています。研究支援員事業は元々、理系の女性教員を対象とした制度でしたが、平成23年10月に女性であれば分野を問わず誰でも利用できるよう制度を改正した結果、現在は、文系の女性教員2名を含む9名が本事業を利用しています。

平成24年度からは、本学独自の事業として、以下のとおり更に改正を加えて実施していく予定です。出産、育児中の女性の方だけでなく、ご自身が主として育児、介護を行っている男性もご利用できますので検討下さい。

主な改正点

- 男女を問わず利用可能
- 週あたりの利用時間が10時間以下の場合は、継続して1年間利用可能
ただし、利用は3回まで。

また、産前産後の休暇および育児休業中に非常勤講師を雇用できる代替要員制度やベビーシッター育児支援事業の利用もご検討ください（問い合わせは人事課ダイバーシティグループへ〈内線：7303〉）。

【代替要員制度】

教員が産前産後の休暇および育児休業により一月以上休む場合には、前期または後期を単位として、教育上必要最小限の非常勤講師を雇用することができます。

【ベビーシッター育児支援事業】

就労のために自宅でベビーシッターを利用する際には、「ベビーシッター育児支援事業割引券」（1日1,700円の補助）が利用できます。

News

研究支援員事業利用者の菅原康助助教（大学院医歯薬学総合研究科）が第70回日本矯正歯科学会大会＆第4回国際会議で「学術大会優秀発表賞」を受賞されました。（発表内容：「マウス大腿骨中の三次元骨細胞ネットワークは外部環境によって変化する」）

WTT教員制

テニュアトラック普及・定着事業に採択

岡山大学ウーマン・テニュア・トラック（WTT）教員制度は平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業（機関選抜型）」に採択されました。これにより、第Ⅰ期および第Ⅱ期WTT教員、並びに第Ⅲ期WTT教員（平成24年4月1日採用）の研究費が支援されることになりました。

さらに、機関選抜型に採用されたテニュアトラック教員の中から、特に優秀な者が選抜、上乘せ支援される「テニュアトラック普及・定着事業（個人選抜型）」に、WTT教員のうち、5名が採択されました。

テニュア・トラック普及・定着事業の詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.jst.go.jp/tenure/index.html>

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

活動紹介と新たな事業展開を目指しての発行

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」である「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の3月での終了に伴い、現在、次年度以降の事業展開に資するための冊子を鋭意制作中です（3月発行予定）。

ご希望の方は是非ご連絡ください。4月から装い新たにスタートする岡大独自の事業に向けて、忌憚のないご意見をお待ちしております。

第三者評価の実施

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」事業の達成状況を把握し、本事業の実施および事業終了後の取組みの参考とするために、平成23年に学内・学外の評価委員、それぞれ2名からなる評価委員会による第三者評価を実施しています。9月には中間評価を受けました。また、事業終了を控えた3月には最終評価を受ける予定です。

第2回 岡山MUSCATフォーラム

輝く！女性医療人キャリアサポート

いまを生きる 求められる医療人の力

岡山大学 医療人キャリアセンター MUSCAT の活動の一環として 11月26日に開催された「第2回岡山MUSCATフォーラム」を共催しました。



ご案内

若者のためのライフデザイン支援講演会

宇宙への夢を追いかけて ～人生の選択と決断～

日時 2012年2月14日（火）13:00-15:00

場所 岡山大学創立五十周年記念館

対象：学生・若者・一般の方【どなたでも参加できます】

お問い合わせ先：岡山大学学生支援センター学生相談室

TEL 086-251-7169

講師 山崎 大地（やまざき たいち）氏

主催 岡山大学学生支援センター
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
＜岡山県若者のためのライフデザイン支援事業＞

申込不要

入場無料

研究支援員事業 利用者エッセイ

プロフィール

松本直子 准教授

大学院社会文化科学研究科



これまで理系のみを対象としていた研究支援事業が、文系にも拡大されると聞き、さっそく応募させていただきました。文系の研究は、理系ほど時間的な拘束が強くないと思われがちですが、やはり基礎的な資料収集や分析作業には時間と労力がかかります。教育やアドミニストレーションに費やす

時間が増加傾向にあるため、ただでさえ研究にかけられる時間が減少しているのに加え、夕方6時までは保育園に2人の娘を迎えにいかねばなりません。幼い子たちの相手をするため、自宅でもほとんど仕事ができないという状況では、研究を進めるのは至難の業と感じていました。

今回支援員の方2人に手伝っていただけることになり、その心配は解消されました。現在科研費を取得している研究は、コンピュータによるシミュレーションを何度も繰り返してデータを取る必要があるもので、そのための時間を確保するのは絶望的かと思っていたのですが、情報科学を専門とする学生さんに専門の知識を生かして熱心に作業をしていただき、研究も軌道に乗ってきました。

研究が順調に進められると、子どもに対してもゆったりと接することができます。毎日ばたばたしていることには変わりありませんが、研究活動がままならないことによるストレスが軽減されるので、心に余裕ができるのです。こうした支援が、今後も継続し、次世代を育成することと研究活動とが両立しやすい大学であり続けることを望みます。

研究支援員からのコメント

「自分の学部では学ぶことのできない知識を得ることができ、他学部との研究での繋がりを実感しました。」

女性サポート相談室だより

第8回キャリアカフェ

キャリアカフェは、これまで本部棟で開催してきましたが、「場所が遠くて参加できない」とのご要望にお応えし、今回は環境理工学部で行いました。当日は、工学部と環境理工学部に所属する女性教職員が参加し、女性のキャリア形成と家庭の両立について話し合いました。参加者の中で、夫の仕事の都合により自分のキャリアを一時的に中断せざるをえなくなった女性研究者に対し、他の参加メンバーからは励ましやアドバイスがなされました。今回、男女共同参画室長の沖先生が同席されていたこともあり、ご自身の経験を交えて、女性として、働く女性として、そうした状況にどう向き合っていくべきかをお話いただきました。夫や子供の事情によって女性のキャリアを変更せざるを得なくなる事は、研究者という立場に限った問題ではなく、職員の方々にとっても身近な問題でもあったので、室長のお話にとても勇気づけられたとの感想が寄せられました。

DV (Domestic Violence) 防止講演会 「被害者・加害者にならないために」

11月25日(金)、岡山県男女共同参画推進センター・本学学生支援センター学生相談室との共催でDV防止講演会を実施しました。当日は、学内外の約120名の方にご参加いただきました。



NPOさんかくナビ理事長の貝原己代子氏が、DV被害者女性とその子供の支援活動に従事されてきた立場から、DVの「被害者・加害者にならないために」と題し講演され、司会を女性サポート相談室の小畑相談員が担当しました。DVやデートDVに関する相談は、女性サポート相談室、学生相談室、保健管理センターまでどうぞ。

ミニ コラム データで見る岡山大学 男女共同参画の現状 ⑥

第3次男女共同参画基本計画(平成22年12月策定)では、「男性、子どもにとっての男女共同参画」が重点分野として挙げられ、男性が固定的な性別役割分担意識から解放され、子育てをはじめとする地域や家庭での活動に積極的に参加することが期待されています。

本学では、ダイバーシティ推進本部次世代育成支援室を中心に子育て支援を行っており、学内保育施設の整備が進んでいます。現在、乳幼児保育施設「なかよし園」(昭和51年設置)の利用者の20%強を男性が占めるなど、男性の積極的な利用が進展しています。一方、本学には男女を問わず利用できる育児に関する諸制度(保育休暇や育児短時間勤務等)が整備されていますが、男性の

利用は女性に比べまだまだ少ない状況です。例えば、男性が育児休業を取得した事例は過去に4件しかありません。

全国的に見ても、男性の育児休業取得率は1.72%(平成21年)と低く、基本計画の「平成32年までに13%」という目標達成は困難に思われます。なぜなら育児に専念できる配偶者がいることが多い男性は一般的に家事、育児に対する当事者意識が低く、また、職場環境も男性が休むことに対して厳しいからです。

今後とも、岡山大学では共働きの教職員を始め、男女を問わず働きやすい職場環境作りを進めていくことが必要だと思われます。

クイズ

平成23年度夏期に、かいのき児童クラブ(津島地区に設置された学童保育施設)を利用した子どもの親(利用申請者)に占める男性の割合は何%だったでしょうか?

編集後記

キャンパスはいろいろな意味で試験の季節です。卒業、進学に向けて期末試験に追われている在学生、これからの大学生生活に夢を託して、入学試験に挑む高校生、多くの若い力が試されようとしています。男女共同参画室が文部科学省から活動支援を受けていた「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」のプロジェクトも最終段階に入り、その活動が評価されようとしています。我々の多岐にわたる3年間の活動によってダイバーシティの概念やワークライフバランスの考え方は確実に浸透しているものと自負しています。このプロジェクトは、大学独自の事業として来年度以降も引き継がれ、装いを新たに男女共同参画の一層の推進を目指して再出発します。また、来年度の講義はプロフェッショナルを目指す学生さんに話題を提供する予定です。是非今後とも男女共同参画室の活動をご支援ください。

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL & FAX: 086-251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/



クイズの答え: 29.0%。利用申請者のうち、女性が44名だったのに対し、男性は18名でした。